

上文殊地区の誇り

まぼろしの里芋を次の世代に



福井市北山町の農業生産組合が、地元で栽培しているサトイモのPRに力を入れている。一般的なサトイモよりも大粒で柔らかく、茎が赤黒いのが特徴。約60年前に偶然見つかった品種で、知り合いの農家に少しずつ株分けし、増やしてきた。昨年から「まぼろしのさといも」と銘打ち、みどりののぼり旗を製作し、地元上文殊小学生を対象にした収穫体験会を開いている。スーパーや市場にはまだ出荷しておらず、生産分は予約のみで完売するほど。その存在は口コミで人気広がっており、知る人ぞ知る、まさに「まぼろしのサトイモ」である。



芋は一般的なものよりやや大きく直径7センチ前後で、茎の高さも1.5メートル以上と長め。現在約千平方メートルで800株ほどを栽培。毎年約2トン以上を収穫している。冬場のおでんやシチューにすると美味しいと評判である。



上文殊公民館のイルミネーション点灯式会場では上文殊小児童が収穫した「まぼろしのサトイモ」を採り上げ、振舞いシチューとして来場者に配布している。「まぼろしのサトイモ」と書いた緑ののぼり旗を掲げ、地元野菜のPRに努めている。

北山生産組合
糸生 幸男さん

このサトイモの発見者である、北山町農業生産組合の糸生幸男さん。「よそにはないサトイモ。担い手を見つけて、いつまでも残してもらいたい」と、地元の伝承野菜としてしっかり根付かせるため、日々努めている。

上文殊公民館

住 所／福井市北山町34-1
電 話／0776-41-0516
交通機関／京福バス「上文殊小学校口」バス停から徒歩5分